

令和7年度全国学力・学習状況調査 行方市の結果の概要

行方市教育委員会学校教育課

令和7年4月に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された、「令和7年度全国学力・学習状況調査」の結果について、本市の概要をお知らせします。なお、本調査には、本市のすべての小中学校が参加しております。

【結果の概要】

1 教科に関する調査

(1) 小学校国語

- ・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができています。
- ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるよう、今後さらに力を入れていきます。

(2) 小学校算数

- ・問題を解くために必要な数を見つけ、その求め方を式や言葉で正しく表現することができています。
- ・棒グラフの特徴や使い方の理解、また項目間の比較や関係の読み取ることができるように努めていきます。

(3) 小学校理科

- ・植物の育ち方を調べる中で、芽が出ることや成長、実ができることについて、その条件を予想したり仮説を立てたりしながら、解決方法を考えて表現することができています。
- ・電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わることを理解できるように努めていきます。

(4) 中学校国語

- ・自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができています。
- ・手紙の下書きを読んで、漢字の誤りを見付けて正しく直したり、修正した方がよい部分を見付けて文章を整えたりすることができるように努めていきます。

(5) 中学校数学

- ・不確定な事象の起こりやすさ（確率）について、判断した理由を確率を用いて説明することができています。
- ・平行四辺形の図形の性質を考察し、方針を立てて証明できるように努めていきます。

(6) 中学校理科

- ・見いだした問題を解決するための課題を設定することができています。
- ・化学変化の様子を原子や分子のモデル図で表すことができるよう努めていきます。

2 質問紙

(1) 小学校児童

- ・「学校に行くのは楽しい」と感じている割合が高く、授業についても『自分に合った教え方や教材、学習時間になっていた』と答える児童が多く見られました。学校生活や学習活動に前向きに取り組んでいることが分かりました。
- ・学校が休みの日にも、自分に合った学習時間を計画的に確保できるように、これから取り組んでいきます。

(2) 中学校生徒

- ・生徒たちは自分の存在や行動に価値を見だし、学校生活の中で前向きに取り組んでいることが分かりました。
- ・学習内容に合わせて、学習時間をより充実させられるよう、今後取り組んでいきます。

【本調査結果に基づく改善点】

1 主体的・対話的で深い学びの実現

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業実践を推進していきます。

2 資質・能力の確実な育成のための ICT 活用の推進

ICTを活用した教育を通じて、児童生徒一人一人の学習方法に合わせた指導を行い、主体的に課題解決へ取り組む力を育成していきます。

- 3 アプローチ・スタートカリキュラムと年間複数回の計画的な学び直しの実施
課題となる学習内容について、学校間や学年間の接続時期に応じて、年間複数回の学び直しや補充的な学習を計画的に実施し、既習事項の定着を図っていきます。
- 4 習熟度別・少人数指導による個別最適な学びの推進
児童生徒の学習状況をきめ細かく把握し、小学校の算数科、中学校の数学科・英語科を中心に、習熟度に応じた指導を取り入れて、学習内容の定着と発展的な学びを推進していきます。
- 5 児童生徒の自己有用感、自己効力感の育成
児童生徒の自己有用感や自己効力感を育むことで、安心して学べる居場所や仲間との絆を作り、主体的な学びに取り組む姿勢を育成していきます。

【本調査について】

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象 小学校第6学年の児童、中学校第3学年の生徒

3 調査内容 (1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
(2) 質問紙調査(児童生徒、学校)

4 調査方式 悉皆調査

5 調査日 令和7年4月14日(月)～25日(金)の期間で実施